

新たに予想される朝鮮半島の軍事危機

—米朝と南北の首脳会談を軍事的側面から分析する—

西村 金一

軍事・情報戦略研究所長

金正恩委員長は、米国と韓国の大統領との会談で、“朝鮮半島の完全な非核化に取り組む”ことは約束したが、「北朝鮮の核を放棄する」とは一度も発言しなかった。しかし、二人の大統領は、金正恩を“信頼できる”“信じている”と言う。そして、「その根拠は何か」の質問には答えていない。

文大統領は意図的にそう思い、トランプ大統領は、騙されているかもしれない。

米朝会談の共同声明には、米国が強く主張していた“完全かつ検証可能で不可逆的な非核化”が盛り込まれなかった。米国は、さらに、北の核を廃棄させる具体的な道筋と期限を決められなかった。トランプ大統領は“交渉人”と自称する人だから、金正恩に「いつまでに核を廃棄する」と言わせることができるかと、少しは期待したが、「朝鮮半島の非核化」という表現でごまかされてしまった。

最も重要な非核化の実現の目途について、具体的な目標を決めなければならない。例えば、核爆弾の原料を製造するウラン濃縮工場やプルトニウムができる 5MW の黒鉛原子炉、弾道ミサイル製造工場の公表と会談後約 1 年には破壊するという目標などだ。そうでなければ、トランプ氏の在任期間（～2021 年 1 月まで、あと 2 年半）では、北の非核化は実現せず、反対に、北を核保有国として、認めざるを得なくなるだろう。

一方、前回の板門店での南北会談では、韓国の文在寅大統領が、金正恩委員長の「叔父の張成沢を高射砲で殺害し、実兄の金正男を化学兵器 VX 剤で公衆の面前で無残に殺害した指導者」という印象

を、「平和を求めている、ものわかりのいい、人間性溢れる戦略家の指導者」に作り変えている。

板門店宣言の内容、文在寅政権の動きと韓国国民の反応を見ていると、韓国が北に呑みこまれそうで不気味な恐ろしさを感じる。

新たに予想される朝鮮半島の軍事危機を分析するために、北による「朝鮮半島の非核化(核の放棄と体制保証,)」及び「南北統一」の二面性を、別々に時には重ねて見なければならぬ。分析に際しては、①核ミサイルに頼らざるを得ない北朝鮮、②「ならず者国家」の正体、③北朝鮮が言う「朝鮮半島の非核化」の狙いは何か、④北朝鮮による南北統一戦略の狙いは何か、⑤今後の予想一を考察する。

1 北朝鮮が核を手放す意思があるか、本音は核に頼らざるを得ない

北が核を手放す意思があるかどうかを見るには、現在の軍事力、嘘つきの過去、そして現在の動きから読み取らなければならない。

(1) 経済発展や人民の生活を犠牲にして、軍を優先して予算を投入してきた

金日成主席が1962年に発表した、「全軍の幹部化」、「全軍の近代化」、「全人民の武装化」、「全国の要塞化」の四大軍事路線を、北は長年推し進めてきた。

『2016世界軍備支出報告書』によると、北のGDPに対する軍事費の比率は、世界でも突出して高く第1位で23%を占め、大きな負担となり財政を圧迫している。深刻な経済状態であっても、総人口2,400万で総兵力111万人(約4.6%)を養うことは、国家にとってかなりの負担になっている。戦時態勢に近いイスラエルの2.5%



にしむら きんいち

1952年佐賀県(唐津市)生まれ。法政大学文学部卒。防衛省入省。統合幕僚監部・陸上幕僚監部等の情報分析官、防衛研究所研究員、陸上自衛隊幹部学校戦略教官、三菱総研国際戦略研究グループ専門研究員を歴任。軍事・情報戦略研究所所長。著書に、「北朝鮮の実態」(原書房)、「自衛隊は尖閣紛争をどう戦うか」(共著・祥伝社)、「究極の危機管理」(共著・内外出版)。

に比しても、約 2 倍であり戦時態勢の状態である。

北は長年、深刻な経済危機が続き、人民が飢餓常態にあったにもかかわらず、米韓軍の攻撃を想定して、軍事に重点を置くしかなかった。

(2) 核ミサイルに頼らざるを得ない通常兵器の現状

地上軍の主力戦車は、T-54/55 であり、1970 年以前にロシアで製造されたもので、ロシアではほとんどが現役を退いている。

海軍の主力軍艦は、1950 ~ 70 年の間に建造された旧式・老朽化した艦艇である。それらは建造されて 60 ~ 70 年以上も経過しており、諸外国であればとっくに退役している。

世界の空軍機は第 1 世代から第 5 世代まであるが、北朝鮮空軍の主力戦闘機は、第 2 世代の Mig-19/21 が約 80% を占めている。

北朝鮮軍の通常兵器は、旧式でかなり老朽化している。北朝鮮の海空軍は、米韓の海空軍と戦闘を行えば、容易に撃破され、1 週間ももたずに全滅させられることになる。つまり、北朝鮮は、核ミサイルに頼らなければ、国土を守り切れない。このことを金正恩もよく知っているはずだ。

(3) これまで、「並進路線」と言いつつも、核・ミサイル開発だけが最優先だった

2016 年の朝鮮労働党大会において、金正恩は、「経済建設と核戦力建設を並進させるという黨の戦略的路線を引き続き貫徹しなければならない」と述べた。ということは、名目的には、金正日総書記時代の「先軍政治」から、経済建設も同時に進める「並進路線」へ舵を切ったということになる。だが、現実に「並進路線」を進めていたわけではない。前述のように、軍事費には GDP 比 23% (2016 年) を投入し、さらに、国際社会の厳しい経済制裁の下でも、核ミサイル開発に邁進していた。

今年の 4 月、党中央委員会総会で、「並進路線」が役割を終え、

社会主義経済建設に総力を集中する「新たな戦略的路線」への転換を表明した。

しかし、それが本気かどうかは、軍事予算や兵員を削減するか、国を開放するかどうかを観察すれば、容易に判断ができる。

(4) 北朝鮮に何度も裏切られた過去

金日成主席は1986年、北は「核兵器の実験・製造・備蓄・導入をしない」と宣言。1991年には、韓国と「朝鮮半島の非核化に関する共同宣言」に合意。1990年代に「核を保有する意図は持っていない」と何度も主張し、核開発を認めなかった。

ところが核開発を隠せなくなると一転、2003年に自国の核開発を「抑止力のため」と宣言した。

北は、1994年の米朝枠組み合意、2005年の六者会合「共同声明」も守らなかった。

2005年には、「あくまでも自衛的な核抑止力だ」と核兵器保有を認めた。

核兵器を放棄できない理由に、カダフィ大佐殺害の事例がある。2011年2月頃からリビアが内戦状態になり、米国やNATOの空爆などにより、同年8月カダフィ政権は崩壊、10月カダフィは国民に殺害された。リビアは2003年に大量破壊兵器計画の破棄を宣言した。リビアは、内戦状態になっても、米国やNATO諸国から攻撃を受けることは想定していなかったと思われる。北がリビアの内戦を見た場合、「リビアがNATOから軍事的攻撃を受けたのは、核兵器などの大量破壊兵器を放棄したことや、抑止力のための同盟関係がなかったからであって、そうでなければ、抑止力の効果が発揮され、攻撃されることはなかった」と考えているようだ。北が核兵器を放棄し、中露との同盟関係が薄くなり孤立すれば、リビアと同じように米国から攻撃を受け、体制が崩壊すると考えているだろう。

金正恩は新年の辞で、人民に向けて「昨年のめざましい成果は、

国家核武力完成の歴史的大業を成就したことだ」と述べた。しかし、金正恩は韓国特使団には「非核化目標は先代の遺訓だ」と述べたと報道されている。

つまり、北は話す相手によって言葉を使い分け、その時の都合によって発言することを変えているのだ。

(5) 今年5月の核実験場爆破は、北朝鮮がよくやる下手な芝居

北は5月、豊渓里核実験場の爆破を公開し、核の放棄を示す宣伝を始めた。その時、5か国のマスメディアは招待されたが、爆破を検証する役割を果たすIAEAは招待されなかった。

爆破の映像を見る限りでは、坑道は、入り口だけの爆破で、その爆破の規模もかなり小さい。坑道の内部には、通常コンクリートや鉄の扉があり、内部まで爆破されていないと見積もられる。また、核実験場の付帯施設の爆破については、建物だけであり、内部に収められていた機器類を爆破した証拠はない。このことから、機器類は事前に取り外されていたと考えられる。米ジョンズ・ホプキンス大の北朝鮮分析サイト「38ノース」の「坑道の周辺の技術支援設備が撤去されたのが確認された」という情報も、私の見解を裏付けている。

過去にも北は、プルトニウムを製造する黒鉛減速炉の稼働を一旦停止し、最終的には解体することを約束したことがある。実行したのは、古くなった反射炉を爆破しただけであった。その後、米朝関係が悪化するとたちまち修復して、作動を再開した。現在も稼働させている。

今後、北が「非核化」すると宣言しても、核ミサイルの中核部分は絶対に残すだろう。破壊したところはすぐに修復する。同じことが繰り返されそうだ。

北が、「核放棄へのプロセスを進み始めた」というのは、見せかけのポーズであり、下手な芝居だと言える。

今回の爆破状態であれば、半年から1年もあれば、実験再開が可能と判断すべきである。

2 「ならず者国家」の正体

(1) 「ならず者国家」の過去

何より北は、「ならず者国家」の本質を捨ててはいない。朝鮮戦争以降70年近く、韓国や米軍に対して、ゲリラ攻撃・テロなど数々の軍事挑発を行ってきた。日本でも多くの日本人を拉致して、北に連れ去った。

北は、1968年には、朴正熙韓国大統領の殺害を狙って大統領府（青瓦台）を襲撃。1983年には、特殊部隊兵士がラングーンで韓国大統領を暗殺しようと爆破事件を起こした。1987年には、北工作員が大韓航空機をベンガル湾上空で爆破。2010年には、北潜水艦が魚雷で、韓国哨戒艇を沈没させ、多くの兵士を殺害した。2010年には、韓国の延坪島に対して砲弾を撃ち込み、多数の重軽傷者を出した。

金正恩政権になっても、2013年、叔父である張成沢氏を高射砲で処刑し、2017年、化学兵器のVX剤で、兄の正男を人目に付く空港で惨殺した。

他国に対し、数々のテロ・ゲリラ攻撃などの軍事挑発を行う国、指導者が自分の兄を化学剤で惨殺する国は、この地球上で北だけだ。この「ならずもの国家」の指導者が笑顔を見せてても、正体はテロリストの指導者であることに変わりはない。どんなに融和的な姿勢に出てきても、この本質を忘れてはならない。

(2) 180度異なることを平氣で言う

2010年には、北は、韓国海軍哨戒艦に対して魚雷攻撃を行い撃沈し、延坪島に数十発の砲弾を撃ち込んだ。この時、全ての南北関係を断絶すると発表していた。それにもかかわらず、北は翌年の新年の辞では、「南北間の対決状態を一日も早く解消しなければならない」と関係改善を提示した。すなわち、北は、前年には、軍事挑発を仕掛け、南北関係を断絶すると発表しているながら、翌年には、

発言をひっくり返すように平和的な発言を唱えているのである。このように北は、自分から相手を殴っておいて、その後、善人のふりをして、仲よくしようと言うのと同じことをしている。

北の悪意ある行為と、その直後にそれを覆い隠す友好的な発言の繰り返しは、北の外交的発言や合意は信用できず、守られないということである。

2017年には、北はICBMの開発と6回目の核実験を実施した。その翌年の2018年新年の辞では、「現下の情勢は、今こそ北と南が過去に縛られることなく、北南関係を改善し、自主統一の突破口を開くための決定的な対策を立てていく」と述べている。2010～11年の発言と同じことが、2017～18年にも再び起こっている。

北との外交交渉に入ると、「北は、今度こそ合意を守ってくれる」と信じる人がいる。その期待は、“幻想”に他ならないことを肝に銘じておくべきだ。

3 北朝鮮が言う「朝鮮半島の非核化」「体制保証」の狙い

(1) 米軍のプレゼンスを韓国から排除するための、米韓軍事同盟の破棄だ

北が「朝鮮半島の非核化」(北による核の廃棄ではない) や「体制の保証」を持ち出してきたのは、何故か。

北は、北による朝鮮半島統一という国家目標達成のため、核兵器と米国に届くICBMを交渉の手段として使って韓国から米軍を追い出し、米国からの核ミサイルが自国に打ち込まれない確証を得たいと考えている。さらには韓国を軍事的手段で占領するために、「米韓軍事同盟の破棄」を望んでいる。そのためには、1950年に始まった朝鮮戦争の休戦協定を終結させて、平和協定を結ぶことが第一歩なのである。

北が狙う平和協定とは、南北が共存する「平和」の意味ではなく、米軍が北に対して軍事力を行使できない仕組みを実現させることである。その証拠に、北は今年の新年の辞で、「南朝鮮(韓国)は、米

国の核兵器と侵略兵器を引き入れる一切の行為をやめるべきだ」と発表している。北が望む「平和」では、朝鮮半島の非核化と体制の保証とは不可分である。

平和協定締結となれば、米韓軍事同盟も存在根拠を失う。もし北の望み通り、米朝合意に至って、米軍や国連軍が韓国から完全に撤退し、韓国軍だけで韓国を防衛することになると、当然、南北の軍事的な均衡（安定）はなくなる。

（2）米韓軍事同盟を破棄させるための北朝鮮戦略

南北首脳会談の結果を、北朝鮮国営の朝鮮中央通信は「満足な合意をみた」と伝え、韓国特使団は「失望させない結果があった」とし、そして、「北側が朝鮮半島の非核化の意志を明確にした」ことなど、南北で合意した6項目について発表した。

だが、北国営の朝鮮中央通信や労働新聞には、米韓軍事合同演習について理解を示した一などの内容はおろか、会議の中で、「金正恩が、朝鮮半島の非核化は先代の遺訓と述べた」ことも全く記述されていない。

国営通信で発表がない限り合意したと判断するのは、ミスリードだ。にもかかわらず、韓国側が北の今回の発言を安易に受け入れて発表したということは、韓国政府や特使団が、もう既に、「北の罠に嵌ってしまった」ということである。

（3）合意により在韓米軍や国連軍が撤退すれば

北は、核兵器廃棄の約束の見返りに、早急に国連制裁を解除、その後の米韓合同演習中止、在韓米軍の削減と撤退、韓国国連軍の解体を求めるであろう。次に、現在、韓国国内には米軍の核兵器は存在しないが、再配備となる米国の核兵器搭載可能な潜水艦の寄港、爆撃機の飛来の禁止などを求めるだろう。更に、日本海や太平洋に展開する潜水艦・爆撃機からの核ミサイル攻撃も認めない、つまり脅威となる米国の核の傘（抑止力）を排除することを求めるであろ

う。そして、これら北の要求を現実化するための焦点となるのが米韓軍事同盟の破棄なのである。

もしも本当に、米軍の撤退が実現したら、韓国が平和になるかというと、そうではない。北との友好ムードを進める文在寅政権下では、韓国国内に潜伏している工作員と、後から潜入する特殊部隊によって、国内が内乱状態になるのは目に見えている。内乱に乗じて、ソウルに、12万人の北の特殊部隊が空・海から、トンネルから潜入を始め、軍事境界線から地上軍が攻撃を開始する。北の電撃作戦によって、ソウルは短期間で占領され 釜山へ到達するのも早い。米軍が存在せず、米軍の核攻撃もないのであれば、韓国の占拠は、短期決戦で完成する可能性が出てくる。

金日成主席時代からの国家目標、つまり、あらゆる手段を用いた南北の統一が実現するのである。

(4) 米朝交渉が時間稼ぎに使用される、北の核は 50~100 個に

今では、北が保有している核兵器の数は、13~30 個になってしまった。

もし、交渉が長引き北の核兵器を廃棄させられなければ、あるいは軍事攻撃で核兵器を破壊できなければ、また、斬首作戦により金正恩を葬り去り民主的な体制に移行させられなければ、北の核の脅威はどのようになるのか。プルトニウムの製造やウラン濃縮が進み、50~100 個の核兵器を製造するようになる可能性がある。前述の「38 ノース」の研究者も同様の予測をしている。

核・ミサイルの高度化も進むだろう。昨年 6 回目の核実験は、爆発規模が 120~160 キロトンと推定され、爆発規模からすれば、ブースト型核分裂爆弾が成功したと判断できる。2020 年前後には、確実に水爆の実験を成功させ、その後小型化にも成功するであろう。しかもミサイル弾頭部の多弾頭化にも成功すれば、現状の米日韓のミサイル防衛による撃墜も困難になる。日米ミサイル防衛に対し、北の「多弾頭化による迎撃を防ぐ可能性」は格段に高まり、そのせ

めぎ合いはエスカレートしていく。

4 南北会談、北朝鮮による南北統一戦略 騙される韓国

(1) 南北統一は、東西ドイツ統一とはまったく違う

ドイツのベルリンで、「最近、韓国政府職員が何度もベルリンに来て、東西ドイツ統一の話を聞きに来ている」と聞いた。その時、私は、韓国政府の気持ちはわかるが、統一ドイツのようにはならないと思った。

現在考えられるのは、北朝鮮が核を保有（非核化のカードを見せるだけ）したまま南北融和、その後、統一へ進むというシナリオだ。だが、その「統一」は、南北で思惑が違う。

平和協定を結ぶと、米軍を韓国から撤退させ、次に韓国軍を削減させる。また、民族融和の言葉で韓国国民を平和誘導することにより、弱体化させるだろう。そして、最終的には韓国の思惑とは違った北朝鮮が、韓国を飲み込むという「統一」に向かうのではないだろうか。

板門店宣言は、①南北自主統一を早める、②今年中に終戦を宣言し、休戦協定を平和協定に転換する、③朝鮮半島の非核化に向け努力するーとの三つの要素からなる。

南北の平和的統一で、朝鮮半島に平和が訪れるという印象だが、南北首脳の二人も、韓国国民も、米国大統領さえも、それぞれが自分の都合がいいように板門店宣言をイメージしている。

(2) 韓国占領は時間の問題

その心配は、北朝鮮の憲法を見れば想像できる。1998年以前の憲法には、「金日成主席と金正日総書記の思想と指導を具現した主体の社会主义の道を進む」とあった。2016年憲法には、「社会主义の完全な勝利を達成し、自主、平和統一、民族大团结の原則にもとづいて祖国の統一を実現するために闘う」とある。つまり北朝鮮の

国家目標は、金一族による支配体制からなる北が朝鮮半島全体を統一することであると読み取れる。

さらに北朝鮮の国家目標を踏まえたうえで、一見平和的に見える板門店宣言における軍事面の合意事項について細かく見ると、以下のように、南北間の軍事的障害を取り除き、韓国が近い将来北朝鮮に軍事侵攻を受けて、北朝鮮主導による統一がなされそうな内容が密かに加えられている。

- 陸上・海上・空中で、一切の敵対行為を全面中止すること。

米韓軍事演習を止め、米軍の戦闘機や軍艦が韓国に入ることも禁止になる。つまり、韓国における米軍の戦力が低下する。

米朝首脳会談後に、トランプ氏が「交渉が順調に進んでいる間は、軍事演習を行わない」と述べた。これは、小さな一步であるが、北朝鮮有利に動いているものだ。

- 非武装地帯(DMZ)を実質的な平和地帯にすること

DMZ周辺の障害物を取り除くことになり、韓国軍は北朝鮮地上軍がDMZを超えて南侵することを阻止できなくなる。

- 黄海の北方限界線(NLL)一帯を平和水域にすること。

海も陸上と同じになる。

- 段階的に軍縮を行うこと。

段階的な軍縮とは、在韓米軍の撤退、米韓軍事同盟の破棄、米軍の核の傘の撤去が含まれる。その後は、韓国軍の削減の話に及んでくる。

以上のことから、北朝鮮と韓国軍の軍事バランスが崩れ、韓国に軍事的空白が生じ、北朝鮮軍は韓国に攻め入って占領できることになる。文在寅政権の時期に、突然訪れるだろう。

(3) 韓国国民が、北朝鮮のサラミスライス戦略で蝕まれていく

一方の韓国は、北朝鮮から「民族の和解と統一」「同じ血筋を引いた同胞」の言葉を使われると、過去に大統領が暗殺されそうになったこと、多くの兵士が殺害されたことなどを忘れてしまう。南

北首脳会談も、朝鮮半島の平和を演出したセレモニーに過ぎないにもかかわらず、民族統一イコール平和ということで浮かれているのが現状だ。

非核化を唱える陰で、北による韓国を奪い取る南北統一の謀略が進められている現状を忘れてはならない。その手法は、相手に気づかせないように進めていって、気づいた時には取り返しがつかないことになっているという「サラミスライス戦略」だ。

この戦略は、もとは中国が南シナ海の岩礁を、当初は中国の近海から始めていって、最後には南シナ海のほとんどを占拠して、埋め立て、軍事基地化するという戦略を評して使われた言葉だ。

平昌オリンピックからの南北融和ムードを見ると、共同参加、共同チームの結成、芸術団による相互訪問と演奏・鑑賞、実務者会談、南北首脳会談、スポーツ交流などを着々と重ねてきている。一つひとつがサラミの一枚と同じだ。

今後、南北間で首脳会談、実務者会談、南北交通路の開放、軍事交流、そして韓国各地で文化交流が行われるであろう。6月になって、親北活動家とささやかれている任鍾哲（イム・ジョンソク）大統領秘書室長が中心となり、開城工業団地を復帰させるための点検、板門店共同警備区域の非武装化のための話し合いが進んでいく。韓国国民は、徐々に北朝鮮の脅威を忘れ、平和の訪れに酔いしれることになろう。だが私には、韓国が危機に陥るとしか考えられない。

北朝鮮は過去、南北軍事境界線を軍事力で超えて釜山まで侵攻する軍事戦略を保有していた。ところが軍事力が旧式化したために、それが不可能となった。それで、核・ミサイルを保有する戦略を持ったが、それだけでは韓国を呑み込むことができない。

そこで北は、韓国に文政権ができたのを機に、文在寅の宥和政策を上手く利用し、韓国人に気づかれないようにサラミを一枚一枚切り取る要領で韓国に浸透し、奪い取ることを考えついた。

孫子の兵法に、「兵は詭道なり」という言葉がある。戦争では、

敵を騙してやつけるということだ。北朝鮮は今、軍事的恫喝から謀略の戦略に転換した。その謀略で、韓国は北朝鮮から侵攻されやすい環境を作らされてしまうのだ。

5 今後の予想

北の核を廃棄させるのは難しい。なぜなら北は核兵器やICBMをほぼ完成させているからだ。交渉の焦点は、北の核ミサイル廃棄と北の体制保証、すなわち米韓軍事同盟の破棄だが、北は核廃棄をしないという北の本音を米国が見透かしていれば、軍事的合理性から見て、米朝共同宣言にある完全非核化が進展するとは考えられない。核兵器を保有すること、すなわち核大国であることが、金日成から続く北国家の大方針だからだ。金正恩がこの大方針を変換できるわけがない。

これまで2回の合意が守られなかった。この時も大筋合意だけで、廃棄計画が期限付きで決められることはなかった。今回も全く同じ道を歩んでいる。

これから、北が核を放棄する具体的な交渉は進まないだろう。おそらく、米国の中間選挙の前後には、「朝鮮半島の完全非核化」について、北は、「まず、朝鮮半島への米国の核の脅威をなくすべきだ」と主張する。そして、「米国は、北の体制保証をする」と言ったのだから、「韓国の米軍を撤退させるべきだ、そうでないならば、我々は、核を放棄することはしない」と反発するだろう。

日本にとっても他人事ではない。朝鮮半島が全て北朝鮮になると、中国・北朝鮮・ロシアへの抵抗線だった38度線が無くなり、防衛ラインは日本になる。そうすると、日米安保、日本の防衛戦略、自衛隊の戦力を大幅に見直さなければならぬ。当然、今の憲法9条では、周辺諸国の脅威に対応できなくなるだろう。

北朝鮮の戦略（非核化・体制保証・南北統一）を読み解くフロー

国政目標(憲法等)
・独自の体制の維持。
・上記は財による南北。
・先駆政治から党優先。
・國家の異業?

金正恩体制・金正恩の性格
・兄を化學兵器で殺害
・藩戚元凶殺害、地下特軍隊
外交・経済報道

北の洋

*北の未來は、過去を行ってきたことの延長線上にある

卷之三

解説

卷之三

国家観點
・経済政策と長期労働政策の関連構築
・南北統一
・南北統一の時期
・体制開拓のための政策立案

- ・米国や韓国は、開放を学ぶ
- ・中国は、中国の特区方式を学ぶ

関係をもつて、会員登録を行った方へは、会員登録の際に
登録されたメールアドレス宛に、お問い合わせ用紙(問合せ用紙)を
送付いたします。

| | |
|--------------------------|--------------------------|
| ・財物の販賣を賣つて ・財物の販賣を賣つて | ・財物の販賣を賣つて ・財物の販賣を賣つて |

| 会員登録 | 会員登録の流れを詳しく見る |
|------|---------------|
| 会員登録 | 会員登録の流れを詳しく見る |

- 同盟關係の構築
- ・中国との關係改善
- 後型、新型兵器の供与
- 国連軍の抜け穴として活用
- 同盟強化が安保とは関係ない
- ・ロシアとの關係維持

北が理屈いい施設、東が結果させたい施設はどれ？